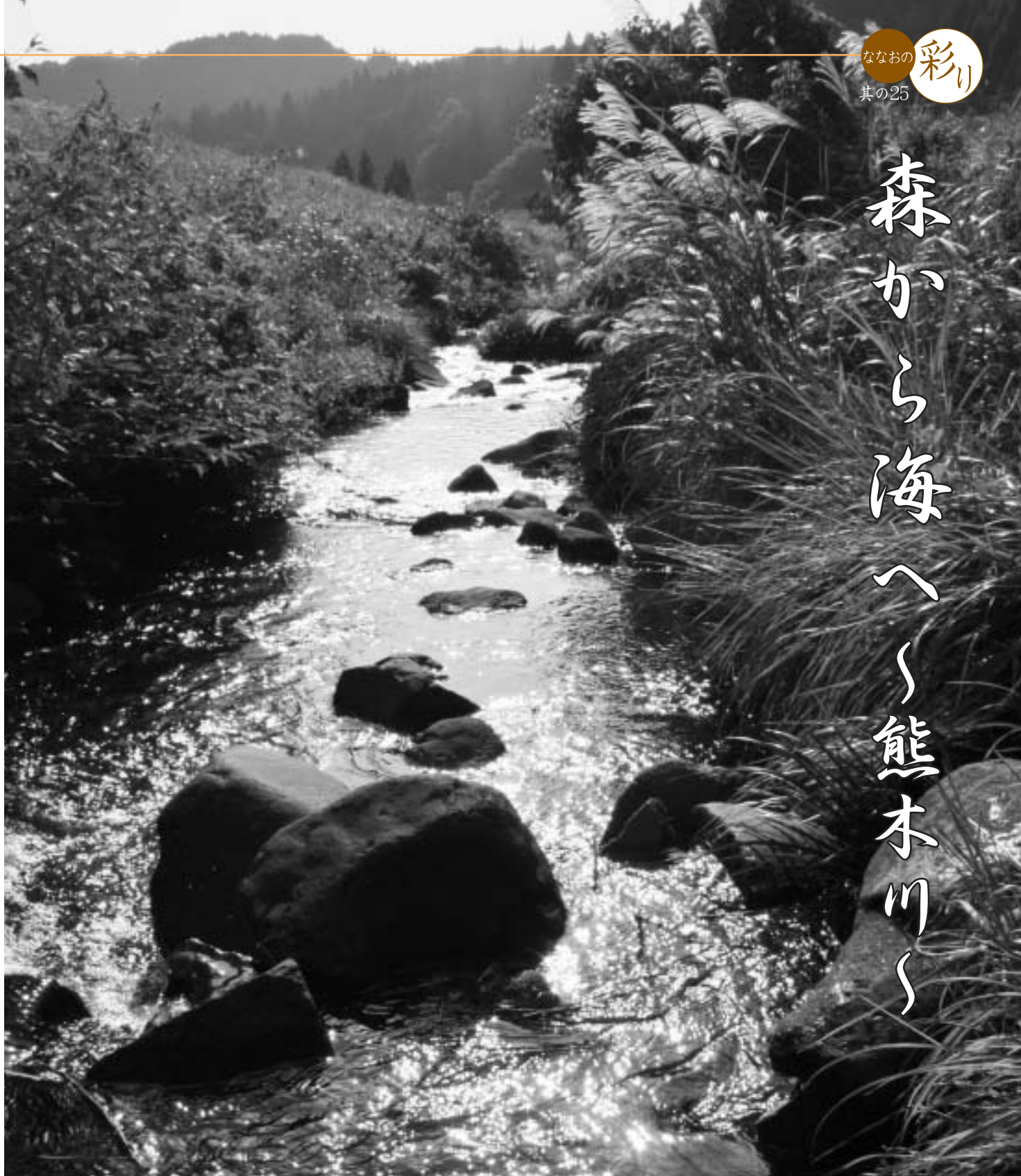


# 森から海へく熊木川く



熊木川上流

## 熊木川

湖面のように静かな七尾西湾に注ぐ熊木川。別所岳や虫ヶ峰などを源流に延長12.4 kmのこの川は、流域周辺の田畑を潤し、川魚を育みながら、牡蛎の養殖を支える養分を海へと運んでいる。また、この川の水は水道にも利用されている。

秋空の下、別所岳方面へと熊木川の源をたずねてみることにした。



カキ

熊木川に沿うように走る県道河内・藤瀬線を上流へ向かって進んでいく。しばらくすると熊木川が二手に分かれる。一方は河内川と名を変え、中島町河内を流れる。もう一方の中島町別所へと続く流れの方へと車を走らせた。川が分かれるとすぐに、道は山の方へと右折する。この右折する場所に、「別所岳」と書いた案内看板がある。また、

「水源地である……」という河内の看板も立っている。(右折せずに少し直進すると河内浄水場がある。)道を登っていくと、川は道と並んだり、交差したりしながら上流へと続いている。細くなった川沿いの道をいくつもの小さな橋を渡り進むと中島町別所へと着いた。

## 中島町別所

この辺りでは、川幅が3mぐらいになっていく。川を覗いてみると、透き通ったきれいな水が流れ、川底の石に着いた苔の姿が見える。水の流れる速く溪流のようである。

この川の水を生活に使っていたのであろうか、川沿いに建つ家には、川へと降りられるように石を組んだ階段のある家が数軒ある。河川を改修する前には、他にも川へ降りる階段のある家があった。

話をうかがった所、かつて



石の階段

さらに、(川の水は夏でも冷たいが、)水の湧いている所は水温が低い。そのため、スイカなどを冷やすことにも利用していたと教えていただいた。湧き水も多い所で、この地区の家では、山からの湧き水をろ過し



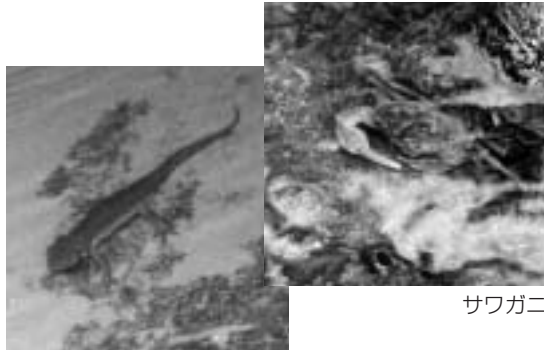
用水の採入口と関

は、この川で、野菜の泥を落としたり、農機具を洗ったり、漬物を塩出しするため、川にさらすこともあった。また、夏場には、田への水の取り入れにつくられた関などにできた川の「ふち」で泳いだり、「じやん」や「がま」と呼んでいる魚を釣ったりするなど、子どもたちの遊び場にもなっていた。

## 森と水

て生活用水に利用している。また、この川の水は、日照りの時でも枯れることはなく、農業用水に困ったことはない。水の豊富な地域である。

さらに上流へと進み、田んぼ脇を流れる、小川のように細くなった熊木川をのぞくと、運良くサワガニやイモリの姿を見ることができた。



サワガニ

イモリ

この辺りの水は、見た目どおり、とてもきれいなのであろう。サワガニは、「水のきれいな水(水質階級I)の指標生物である。」

周囲の山を見わたすと、植林された杉やアテとともに、広葉樹の森も残っている。木の葉が色づくにはまだ早かったが、もう少し秋が深まれば、見事な紅葉の森の姿が見られるだろう。この広葉樹の森に、長年積み重なってきた落ち葉などが天然のダム役割をして、雨水をため、ろ過し、きれいな水を供給しているのである。

## 魚を育てる森

森の栄養が海の生物を育てると聞いたことがある。別所岳の広葉樹の森が供給する湧き水が集まり、熊木川となっていく。この川が森の栄養を海へ運び、豊かな七尾湾の海の幸を守り育てているのである。

## 周辺マップ

